

12/25 15:30 不開不可 取扱注意

情報共有 (2枚非管理メモ)

NISA 3号機 702対応 (暫定版)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 12 月 24 日 (土) 18:00~18:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 10 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所 3 号機原子炉注水ホースの膨れについて

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 3 号機原子炉注水ホースは既に交換したのか。

A. その通り。

Q. 膨れを発見した当時、当該ホースは使用していたのか。

A. 使用していた。3 号機用に 3 本を使っていた。ホースを交換するために常用高台ポンプからの注水ができなくなったため一時的に非常用高台ポンプからの注水ラインに切り替えたもの。

Q. ホースが膨れた原因は。ホース内に何か詰まったのか。

A. ホース内に物が詰まっていたという報告は受けおらず、推測ではあるが経年劣化が原因ではないかと考えている。今後メーカー等の知見も活用し調査をしてまいりたい。

Q. 水漏れはなかったのか。

A. なかった。

Q. 水漏れがないことをどのように確認したのか。

A. 目視で確認した。

Q. ホースの中を流れている水は浄化処理後の水で線量が低いという理解でよいか。

A. 処理水であり、セシウムについては 10^{-1}Bq/cm^3 レベルの濃度である。またストロンチウムについても低いレベルである。

Q. 今回ホースの膨れが発見された箇所は定期的に見回りを行っているのか。

A. 毎日 1 回定期的にパトロールをしている。今回は作業員が当該箇所に行った際にホースの膨れを発見したもの。なお当該ホースの上に見える白い布は消防ホースである。

- Q. 黒い保温材を巻いた配管、赤いカナフレックスの配管に違いはあるのか。
- A. 配布資料に写っている配管は3号機用の炉注配管6本。なお赤い3本のホースは従来から使用していたもの。黒い3本は今回敷設中の配管である。
- Q. 保温材を巻いているが故に不具合を確認できなくなってしまうのではないか。
- A. ひびわれた原因を確認した上で再検討したい。なお、現時点では凍結してホースが壊れることを心配している。保温材を巻くと同時に、架台・サポートを設けて信頼性向上に努めている。
- Q. 当該ホースは凍結して壊れたのか。
- A. ホースの内側に水が流れていることから、凍結が原因という可能性は低いと考えている。
- Q. トレンチ内のたまり水を100m³残しているのは何か理由があるのか。
- A. トレンチの構造上、プロセス主建屋側が深くなっており、今回、ポンプを浅い側に設置していることから、100m³残っているもの。残りのたまり水の移送については今後検討してまいりたい。
- Q. 水を移送したことにより、水の進入箇所は判明したのか。
- A. 現時点では判っていない。
- Q. カナフレックスホースの下にある黒いホースは何か。
- A. 冬季対策と信頼性向上の一環としてカナフレックスホースをポリエチレン配管に交換している。下の配管はポリエチレン配管に保温材を巻いたものである。
- Q. 今後交換予定のホースはどの程度あるのか。
- A. バッファタンクから原子炉建屋までは1.4km程度の長さがあるが、その間については8割程度交換工事が終了している。
- Q. 建屋から水処理装置、水処理装置からバッファタンクまでの配管の取り替え工事は実施しているのか。
- A. これから工事を開始し、1月末頃には取り替え工事を終える予定。なお原子炉建屋内の配管については、屋外に比べ気温の低下が小さいことから保温材は使用しない予定。
- Q. カナフレックスホースが膨れた原因調査についてメーカーへは問い合わせをしたのか。
- A. メーカーには過去同じような事象が発生していないか確認したいと考えている。
- Q. トレンチに水たまりが発見された件で、トレンチに溜まった水の水位がプロセス主建屋に溜まっている水の水位より高いことから、トレンチからプロセス主建屋に水が入り込んでいるという理解でよいか。
- A. その可能性はあると考えている。

以上